

平成 24 年度版

中学校英語科用

NEW HORIZON English Course

Book1

指導計画作成資料

○この資料の内容は、平成 23 年 9 月時点での案となっております。今後、変更がある可能性がありますので、ご了承ください。

(平成 23 年 9 月)

東京書籍

「指導計画作成資料」について

この資料は、平成 24 年度版 NEW HORIZON を使って指導する際の、年間指導計画作成のための参考資料です。学年ごとに、表形式にまとめられています。

Book 1	15 ページ	Book 2	15 ページ	Book 3	14 ページ
--------	--------	--------	--------	--------	--------

表は、以下の項目からなっています。

月	指導する月の目安を示します。						
単元	単元の通し名（例：Unit 1, Speaking Plus 3 など）を示します。						
ページ	その単元の、教科書上のページを示します。						
タイトル／題材・内容	その単元のタイトルのほか、以下を示します。 題材・内容 単元で扱う題材・内容の概略を示します。 設定理由 Unit 及び Let's Read について、その題材を扱うことにした理由を示します。						
時数[単元／パート]	その単元の指導時数の目安を示します。Unit については、パートごとの時数も示しています。 [指導時数について] 指導時数の学年ごとの合計は、以下のようになっています。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>Book 1</td> <td>82</td> <td>Book 2</td> <td>91</td> <td>Book 3</td> <td>87</td> </tr> </table> このように、週 4 時間（年間 140 時間）の 60～70%の時数で余裕をもって扱うことができるようになっています。残りの時数の指導内容は、各学校や先生方の指導計画に任せられます。教科書の指導内容の補充や深化のための時間を、その指導計画に組み入れる場合は、後述「指導時間に関する備考」の、 補充 深化 の表記を 1 つの目安にしてください。この表記のある単元は、プラス 1 時間するなどの指導がしやすい内容になっています。	Book 1	82	Book 2	91	Book 3	87
Book 1	82	Book 2	91	Book 3	87		
パート名	Unit のパート名を示します。						
到達目標	その単元／パートにおいて、言語技能及び題材内容について、生徒が何をできるようになることを目指しているか、という最重要の到達目標を示します。						
学習内容	その単元／パートで扱う主な学習内容を、文法事項と言語活動の両面から示します。 ◇ 文法事項・基本表現 Unit の各パートの新出文法事項と、Speaking Plus の新出基本表現を示します。また、直前に学習した文法事項が本文中で復習的に現れる場合などは、 復習 として示します。						

◇主な言語活動

取り扱う主な言語活動を、以下の 4 つの点から示します。

中心技能	4 技能（聞く、話す、読む、書く）のうち、重点を置くもの
使用場面	本文の使用場面
話題、テーマ	特に中心となっている話題、読み物教材のテーマ
働き	特に中心となっている言語の働き
工夫	コミュニケーションに役立つ工夫やコツ

指導の典型的手順

その単元／パートを指導する場合の最も典型的で基本的な手順例を示します。実際の指導手順がこれと必ずしも一致する必要はありません。（なお、「新出語句の導入」については、「本文の内容理解」の前後に扱われるのが通例と思われるので、記載を省略しています。）

◇[観点別評価分類]

上記手順上の各項目が、評価の観点のうち、どれにあてはまるかを示します。授業中の活動の観察や提出物の評価、定期テストなどにおいて、特定の項目を焦点化することにより、観点別評価が可能です。

[意欲]	コミュニケーションへの関心・意欲・態度
[表現]	外国語表現の能力
[理解]	外国語理解の能力
[言語文化]	言語や文化についての知識・理解

指導に関する備考

指導時数や時間配分上のバリエーション、指導内容に関する留意事項を示します。

補充	基礎・基本の定着を図るための繰り返し学習や、言語を実際に使用する活動、題材への興味・関心を喚起する活動にさらに 1 時間あてるなど、指導の重点化を図ることができる単元／パートを示唆しています。
深化	既習の知識・技能を活用し、自分の考え、感想、気持ち、賛否の理由などについて英語で書いたり、発表したりする活動にさらに 1 時間あてるなど、言語活動の充実を図ることができる単元／パートを示唆しています。
継続	毎時冒頭に数人ずつ発表させるなど、継続的な取り組みに適した内容を含む単元／パートを示しています。[主として Warm-up, Unit, Multi Plus, 学び方コーナー]
言語	基本文以外の指導に留意すべき表現（マイナーターゲット）や重要事項の取り扱いなどについて記述しています。

その他、時間配分上の注意点や指導上の留意点などの項目は*で適宜示しています。また、Sound Box, Tool Box などのコラムや囲みの取り扱いに関する内容もここに含み、これらについては学年最初の該当パートで示します。

指導計画作成資料 (Book1)

月	単元	ページ	タイトル／題材・内容	時数		到達目標	学習内容	文法事項・基本表現		指導の典型的手順[観点評価分類]	指導に関する備考
				単元	パート			主な言語活動			
4	Warm-up	pp. 2-3	<p>Warm-up 題材・内容 小学校外国語活動で扱った、あいさつ、教室で使う英語、アルファベット、英語の音とつづり、数字、週、月日、色、名前を取り上げる。</p> <p>設定理由 小学校外国語活動との円滑な接続を図るために、これらを改めて取り上げる。小学校ですでに音声を通してふれているとはいえ、これらの項目は、中学校3年間の英語学習を支える基本事項である。また、中学校で特に充実すべき「読むこと」や「書くこと」への円滑な接続を図るには、音とつづりの関係を指導することが非常に有効である。それゆえUnitに入る前に、本単元で独立した指導事項として取り上げた(pp.6-7「英語の音とつづり」)。</p>	12	1	1 あいさつ	○英語の音や文字に興味・関心を持ち、表現しようとする(1~9を通して)。 ○出会いやわかれの簡単なあいさつができる。	中心技能	聞く、話す、読む	①音声教材の内容理解 [理解] ②音読表現練習 「表現」 ③補充練習 [表現] ●特に②への取り組み [意欲]	*Tool Box には、表現活動で用いる練習用の補充語彙・表現が提示されている。表現活動に入る前に口頭練習を行うとよい。 *本単元の指導にあたっては、小学校との円滑な接続を図るため、小学校で扱った項目を優先して指導するなど、生徒の負担を考慮して行う。小学校での「素地」を踏まえ、外国語による活動及び英語の学習への興味・関心・意欲をさらに喚起するような指導の手順や方法を工夫する必要がある。ページ順の指導を基本としつつも、「前時の復習を単純に積み重ねるだけでなく、生徒が苦手とするところを重点的に復習する」「Unitに入っても必要に応じてふり返り、Warm-up の復習を行う」「複数の項目を適宜組み合わせる指導する」など、生徒の実態に合わせ柔軟に指導課程を組みたい。 *英語の音とつづりについては、次の2点を指導する。 (1) アルファベットの読み方(名前)の指導 (2) アルファベットが表す発音(音)の指導 特に(2) (フォニックス)は、小学校における活動及び生徒の実態も十分に踏まえ、指導していきたい。子音は「3 アルファベット」で扱う単語の最初の音として与えられるほか、「4 英語の音とつづり」では複数の音があることを扱っている。母音は3, 4の両方で扱っているが、それぞれに2種類の発音があることは明示されていないので、取り出して比較させるとよい。 継続 Your Turnについては、毎回の冒頭で数人ずつ発表させる方法も可能である。発表者以外の生徒には事前に聞き取りのポイントを与えておくといよい。
					1	2 教室で使う英語	○授業中用いる教師の口頭による英語の指示を理解し、行動することができる。また、英語で簡単な質問をすることができる。	中心技能	聞く、話す、読む	①音声教材の内容理解 [理解] ②指示に対する行動 [理解] ③音読表現練習 [表現] ●特に②への取り組み [意欲]	
					2	3 アルファベット	○アルファベットには名前と音があることを知り、大文字・小文字の読み書きができる。また、示された単語の発音ができる。	中心技能	4技能すべて	①音声教材の発音理解 [言語文化] ②発音練習 [表現] ③書き方練習 [表現] ●特に②③への取り組み [意欲]	
					2	4 英語の音とつづり	○音と文字を結びつけたり、異なる発音の文字を知ったり、音とつづりの関係に気づいたりできる。	中心技能	聞く、話す、読む	①音声教材の発音理解 [言語文化] ②発音練習 [表現] ●特に②への取り組み [意欲]	
					1	5 数字	○0 から 100 までの数字を英語で言うことができる。また、電話番号や算数の計算式を英語で言うことができる。	中心技能	聞く、話す、読む	①音声教材の発音理解 [言語文化] ②発音練習 [表現] ③Your Turn [理解・表現] ●特に③への取り組み [意欲]	
					1	6 週	○曜日の英語での言い方を知り、曜日をたずねたり、答えたりできる。	中心技能	聞く、話す、読む	①音声教材の発音理解 [言語文化] ②発音練習 [表現] ③Your Turn [理解・表現] ●特に③への取り組み [意欲]	
					1	7 月日	○月日の英語での言い方を知り、月日や誕生日についてたずねたり、答えたりできる。	中心技能	聞く、話す、読む	①音声教材の発音理解 [言語文化] ②発音練習 [表現] ③Your Turn [理解・表現] ●特に③への取り組み [意欲]	
					1	8 色	○色を表す単語を知り、自分や相手の好きな色についてたずねたり、答えたりできる。	中心技能	聞く、話す、読む	①音声教材の発音理解 [言語文化] ②発音練習 [表現] ③Your Turn [理解・表現] ●特に③への取り組み [意欲]	
					2	9 名前	○名前の書き方を知り、自分の名前を英語で書くことができる。	中心技能	書く	①固有名詞の書き方理解 [言語文化] ②Your Turn [表現] ●特に②への取り組み [意欲]	

月	単元	ページ	タイトル／題材・内容	時数		パート名	到達目標	学習内容	文法事項・基本表現	指導の典型的手順[観点評価分類]	指導に関する備考
				単元	パート				主な言語活動		
5	Unit 1	pp. 14-19	<p>ようこそ、日本の学校へ 題材・内容 カナダから来た新生生のベッキーをさくらと一郎が迎える場面。ベッキーは玄関前でさくらに会ってあいさつし(Part 1), 廊下では一郎にあいさつし(Part 2), 一郎から出身地をたずねられる(Part 3)。 設定理由 Unit による本格的な学習の冒頭には, コミュニケーションの第一歩であるあいさつの場面を設定し, 初対面のあいさつとそこでかわされる表現を取り上げる。</p>	3	1	1	<p>○Hi. と相手の目を見てはっきりとあいさつができる。 ○初対面での表現 Nice to meet you. を使うことができる。 ○I am の文の形・意味・用法を理解し, それを使って自分の名前を紹介できる。</p>	<p>I am</p> <p>中心技能 4 技能すべて 使用場面 新入生との初対面 働き あいさつする 自己紹介する</p>	<p>①本文(対話)の内容理解 [理解] 「名」による自己紹介の理解 [言語文化] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤eye contact についての理解 [言語文化] ●特に④と⑤への取り組み [意欲]</p>		
							<p>○Hello. と相手の目を見てはっきりとあいさつできる。 ○You are の文とその疑問文, それに対する肯定の応答の形・意味・用法を理解し, 表現できる。</p>	<p>You are Are you ...? と肯定の応答</p> <p>中心技能 4 技能すべて 使用場面 新入生との初対面 働き 相手確かめる あいさつする 質問する, 答える</p>	<p>①本文(対話)の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]</p>		
							<p>○Are you ...? の文に対する否定の応答の形・意味・用法を理解し, 表現できる。 ○I am not の文の形・意味・用法を理解し, 表現できる。 ○No で答えた場合に, 一言つけ加えることができる。</p>	<p>Are you ...? と否定の応答 I am の否定文</p> <p>中心技能 4 技能すべて 使用場面 新入生との初対面 話題, テーマ 出身地 働き 質問する, 答える</p>	<p>①本文(対話)の内容理解 [理解] 「一言つけ加える」の理解 [言語文化] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]</p>		
	Unit 2	pp. 20-25	<p>みんな友達 題材・内容 さくらと一郎は, ベッキーに校舎内を案内する。ベッキーの机を教えたり(Part 1), 窓から見える建物について問答したり(Part 2), ベッキーにケビンを紹介したりする(Part 3)。</p>	3	1	1	<p>○This [That] is の文の形・意味・用法を理解し, 表現できる。 ○自分の身の回りにあるものについて持ち主を説明できる。 ○Thank you. / You're welcome. を使う場面を理解し, 適切に表現できる。</p>	<p>This [That] is</p> <p>中心技能 4 技能すべて 使用場面 校内の案内 話題, テーマ 校内のもの 働き 説明する 礼を言う</p>	<p>①本文(対話)の内容理解 [理解] Thank you. / You're welcome. のやりとりの理解と実践 [言語文化] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]</p>	<p>言語 my と your が初出。基本文にうもれがちであるが, 丁寧に説明し, 理解させる。 言語 本文で同じ desk に対して your / my がついた文を連続して発言している。その際は 2 つ目の代名詞が強くなることを指導する。</p>	

月	単元	ページ	タイトル／題材・内容	時数		パート名	到達目標	学習内容	文法事項・基本表現	指導の典型的手順[観点評価分類]	指導に関する備考
				単元	パート				主な言語活動		
5	Unit 2	pp. 20-25	設定理由 Unit 1 からの話の流れが自然になるように、校外外を紹介する場面を用いて、This [that] is ... や He [She] is ... の文を効果的に導入できるようにした。また、名詞を修飾する形容詞、さらに形容詞を修飾する副詞の指導もできるようにした。	1	2	○Is this [that] ...? の文とその応答の形・意味・用法を理解し、表現できる。 ○相手の答えを聞いて、さらに1文つけ加えることができる。	Is this [that] ...? と応答 中心技能 4技能すべて 使用場面 窓の外を見ながら建物 話題, テーマ 好きな食べ物 働き 質問する, 答える 情報をつけ加える	①本文(対話)の内容理解 [理解] 日本食が海外でも知られていることへの気づき [言語文化] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	言語 不定冠詞 a が初出。既習の my, your と対比させると説明しやすい。 言語 「形容詞+名詞」は Warm-up 8 (p. 11) で既習だが、Unit でも再度取り上げ、日本語と比較するなど、構造にもふれたい。ただし、文法用語はできるだけ避ける。 言語 fish market, sushi bar は「名詞+名詞」の初出。構造についてはふれない。音読の際は意図的に前の名詞を強く発音させる。		
										1	3
	単元練習1	p. 26	be 動詞 題材・内容 「～は…です」と言うときの、be 動詞の形と用法(特に語順)について総復習をする。	1		○be 動詞について復習し、理解を確かめる。	復習 be 動詞 中心技能 書く	①「確かめよう」による確認 [言語文化] ②「やってみよう」による練習 [言語文化]	補充 「やってみよう」と類似した問題を作成して取り組ませる。生徒の負担を少なくするため、教科書の本文を参考に問題を作成するとよい。		
	学び方コーナー1	p. 27	文の書き方 題材・内容 英語の文を書くときのルールを扱う。	1		○文を書くときのルールを理解し、正しく書くことができる。 ○文を書き終えたあと、自分で見直して、誤りがあれば正すことができる。	中心技能 書く	①単語の書き方の理解 [言語文化] ②文の書き方の理解 [言語文化] ③ルールに従って書く練習 [言語文化]	補充 Unit 1 と 2 の本文について、見る人が理解できるように、正確かつ丁寧に書写させる。ペンマンシップなどを活用してもよい。活動中に個別指導を行う。		
	Unit 3	pp. 28-33	はじめまして, ブラウン先生 題材・内容 ブラウン先生の初めての授業。田中先生がブラウン先生を生徒たちに紹介したあと、ブラウン先生が自己紹介をする(Part 1)。その後、生徒たちは先生にインタビューをする(Part 2, 3)。	3	1	1	○自分が関心のある事柄についての情報を含めた、簡単な自己紹介ができる。 ○I like [play] ... の文の形・意味・用法を理解し、表現できる。	I like [play] ... 中心技能 4技能すべて 使用場面 ALT の授業 話題, テーマ 出身国 働き スポーツ, 音楽 あいさつする 自己紹介する	①本文(自己紹介)の内容理解 [理解] Ms. [Mr.] ... の理解 [言語文化] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読 [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	継続 Your Turn の応用として、毎時間冒頭に数人ずつ自己紹介の発表をさせてもよい。	

月	単元	ページ	タイトル／題材・内容	時数		パート名	到達目標	学習内容	文法事項・基本表現	指導の典型的手順[観点評価分類]	指導に関する備考
				単元	パート				主な言語活動		
6	Unit 3	pp. 28-33	設定理由 Unit 1, 2 からの場面の流れが自然であり、かつ、一般動詞の文（肯定、疑問、否定）の理解と練習にふさわしい内容とした。また、自己表現に必要な一般動詞を比較的早い段階で複数導入することで、本文を参考に自己紹介したり、たずね合ったりする言語活動が可能である。	1	2	○趣味や学校生活などについて簡単なインタビューをしたり、それに答えたりできる。 ○Do you ...? の文とその応答の形・意味・用法を理解し、表現できる。	Do you play ...? と応答 中心技能 4 技能すべて 使用場面 ALT の授業 話題, テーマ 楽器, 通勤手段 働き インタビューをする 答える	①本文（対話）の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	継続 Your Turn の応用として、毎時間冒頭に数人に発問したり、教師に対して生徒から発問させたりしてもよい。 言語 on や by の意味・用法を理解させ、適切に表現できるようにする。		
				1	3	○趣味やほしいものなどについて、たずねたり、答えたりできる。 ○I do not の文の形・意味・用法を理解し、表現できる。	I do not have 中心技能 4 技能すべて 使用場面 ALT の授業 話題, テーマ 持っているもの, ほしいもの, 言語 働き 呼びかける インタビューをする 答える	①本文（対話）の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	補充 一般動詞を用いた「自己紹介のスピーチ」活動などにより既習事項のさらなる定着を図る。 深化 発表者のスピーチの内容について、質問文を作成させるとよい。 言語 接続詞 (but) や話しかけるときに必要な表現 (Excuse me.) を適切に理解し、使えるようにさせる。		
	1		一般動詞 題材・内容 一般動詞を使った肯定文、否定文、疑問文とその答え方の総復習をする。特に語順や疑問文・否定文を作る do の役割を再確認する。	1	○一般動詞の文について復習し、理解を確かめる。	復習 一般動詞 中心技能 書く	①「確かめよう」による確認 [言語文化] ②「やってみよう」による練習 [言語文化]	補充 「やってみよう」と類似した問題を作成して取り組ませる。生徒の負担を少なくするため、教科書の本文を参考に問題を作成するとよい。			
		Listening Plus 1	何の CM? 題材・内容 コマーシャルの英語を聞き取り、その内容を理解する。	1	○コマーシャルを聞いて、その概要や重要な情報について聞き取ることができる。	復習 be 動詞, 一般動詞 中心技能 聞く, 書く 使用場面 コマーシャル 働き 宣伝する 工夫 メモをとる	①コマーシャルの概要の聞き取り (Step 1) [理解] ②コマーシャルの内容の確認 (Step 2) [理解] ③コマーシャルの内容に関する質問への応答 (Step 3) [理解・表現] ④Sound Box による発音練習 [言語文化] ●特に③への取り組み [意欲]	言語 外来語や「カタカナ語」になっている英単語の発音やアクセントについて、ちがいを理解させ、正しく発音できるようにさせる。 *Sound Box は、次時以降も同様の例が出てきたときにふり返るなど、継続的な指導を心がけたい。			

月	単元	ページ	タイトル／題材・内容	時数		パート名	到達目標	学習内容	文法事項・基本表現	指導の典型的手順[観点評価分類]	指導に関する備考
				単元	パート				主な言語活動		
6	Unit 4	pp.36-41	楽しい昼休み 題材・内容 昼休みの対話。話題は「折り紙」(Part 1), 「好きな教科」(Part 2), 「毎日の朝食」(Part 3)である。3つの話題とも、日本と関係のある内容となっている。 設定理由 「教科」「朝食」という話題は、1年生の誰もがかわり、また扱いやすい話題である。Unit 3 で扱った話題(スポーツ, 音楽, 通学手段)に、これらが続くことにより、生徒の自己表現の幅が大きく広がることが期待される。	3	1	1	○ある物を見て、それが何であるかをたずねたり、答えたりできる。 ○What is ...?の文とその応答の形・意味・用法を理解し、表現できる。	What is ...?と応答 中心技能 4技能すべて 使用場面 昼休みの学校で 話題, テーマ 折り紙 働き 質問する, 答える 相づちをうつ	①本文(対話)の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]		
					1	2	○好きな教科について、相手にたずねたり、答えたりできる。 ○「be 動詞+補語(形容詞)」の肯定文と否定文の形・意味・用法を理解し、表現できる。	... is interesting. ... is not easy. 中心技能 4技能すべて 話題, テーマ 天気, 好きな教科 働き 質問する, 答える	①本文(対話)の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	継続 天気をたずねたり、それに答えたりする練習を授業の冒頭に行う。習熟度に応じ、天気をたずねる役割を生徒に受け持たせる。	
					1	3	○毎日の朝食について相手にたずねたり、答えたりできる。 ○What do you ...?の文とその応答の形・意味・用法を理解し、表現できる。	What do you ...?と応答 中心技能 4技能すべて 使用場面 ALTの授業 話題, テーマ 毎日の朝食 働き 質問する, 答える 工夫 たずね返す	①本文(対話)の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	補充 教科, 朝食などをテーマとしたスピーチによる自己表現活動を通じ、既習表現の定着を図る。食べ物については、応用編 Bonus Word Box (p.129) も活用する。 深化 発表者のスピーチの内容について、質問文を作成させるとよい。 言語 How about ...?の使用場面を理解させ、適切に表現できるようにする。	
7	Multi Plus 1	pp.42-43	自己紹介 題材・内容 4技能総合の自己表現活動としての自己紹介。Unit 3 と4で扱った話題を中心に、モデル文を参考に自己紹介の原稿を書き、発表する。	2		○モデル文を参考に、自己紹介の原稿を3文以上の英語で書くことができる。 ○書いた原稿をもとに、自己紹介のスピーチをすることができる。 ○友達のスピーチを聞き、その内容について質問することができる。 ○「世界の友達の自己紹介」を聞き、その内容について理解できる。	復習 Unit 1~4の総復習 中心技能 4技能すべて 話題, テーマ スポーツ, 教科, 楽器 働き 自己紹介する, 発表する, 質問する, 答える 工夫 話題を自分で選ぶ 姓名を正しく伝える	①活動目標の理解(目標) [理解] ②既習事項の復習(復習) [理解] ③モデルの内容理解(Hop) [理解] ④話題を選ぶ(Stepの1) [意欲] ⑤自己紹介を書く(Stepの2) [表現] ⑥自己紹介の発表と質疑応答(Jump) [理解・表現] ⑦世界の友達の自己紹介の聞き取り(Challenge) [理解] ●特に⑤と⑥への取り組み [意欲]	補充 Stepの原稿作成に1指導時間をあて、全体を3指導時間とし、「書くこと」の指導の重点化を図ることも可能である。 継続 Jumpは、毎時間冒頭に数人ずつ発表させる、という方法でもよい。 *Challengeは、情報量が多いので、一度にすべてを聞かせる方法以外に、1文ずつ聞かせて内容を確認するという方法もある。		

月	単元	ページ	タイトル／題材・内容	時数		パート名	到達目標	学習内容	文法事項・基本表現	指導の典型的手順[観点評価分類]	指導に関する備考
				単元	パート				主な言語活動		
9	Unit 5	pp. 44-49	お祭り大好き 題材・内容 町のお祭りにブラウン先生と生徒たちが出かける。ブラウン先生と店員による注文の対話 (Part 1), ブラウン先生と一郎による音楽や CD を巡る対話 (Part 2), さくらとケビンによる金魚すくいをしながらの対話 (Part 3) と続く。 設定理由 店で注文をするという場面は複数形の導入に効果的であるだけでなく, 1 年の早い段階から「英語を使う」ことを生徒に実感させることができる素材である。	3	1	1	○店での注文および支払いのやりとりができる。 ○名詞の複数形の形・意味・用法を理解し, 表現できる。	名詞の複数形 中心技能 4 技能すべて 使用場面 出店で 話題, テーマ お祭り 働き 注文する 苦情を言う, 謝る	①本文 (対話) の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	補充 本文を利用して, 場面をハンバーガーショップに変え, 店員と客とのやりとりを演じさせる。 言語 品物を渡したり, 謝ったり, それに対して了解したりする際の典型的な表現の形・意味・用法を理解し, 適切に表現できるようにする。	
				3	1	2	○音楽や CD についてたずねたり, それに答えたりすることができる。 ○How many ...? の文とその応答の形・意味・用法を理解し, 表現できる。	How many ...? と応答 中心技能 4 技能すべて 使用場面 CD 売り場で 話題, テーマ 音楽, CD 働き 質問する, 答える	①本文 (対話) の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	言語 接続詞 so や形容詞 about の意味・用法を理解し, 表現できるようにする。	
				3	1	3	○「…しよう」と提案したり, 「…してください」と申し出たり, 「…しなさい」と指示したりすることができる。 ○Let's ... の文と命令文の形・意味・用法を理解し, 表現できる。	Let's ... / 命令文 中心技能 4 技能すべて 使用場面 出店で 話題, テーマ 金魚すくい 働き 提案する, 指示を申し出る	①本文 (対話) の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	言語 疑問文や否定文における any の形・意味・用法を理解し, 適切に表現できるようにする。 言語 this one の one は, it と混同しやすいので, どのような場合に使われる語なのかを指導する。	
	Unit 6	pp. 50-55	ベッキーのおばあちゃん 題材・内容 ベッキーの祖母ナンシーが話題の中心となる。写真を使った紹介のスピーチ (Part 1), ブラウン先生との問答 (Part 2), ナンシーについてのより詳細な紹介 (Part 3) と続く。	3	1	1	○人について簡単な紹介をすることができる。 ○三人称単数現在形の肯定文の形・意味・用法を理解し, 表現できる。	三人称単数現在形 (肯定文) 中心技能 4 技能すべて 使用場面 スピーチ 話題, テーマ 居住地, 職業, 言語 働き 紹介する 発表する	①本文 (紹介) の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読 [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]		
				3	1	2	○人についてたずねたり, それに答えたりすることができる。 ○三人称単数現在形の疑問文とその応答の形・意味・用法を理解し, 表現できる。	三人称単数現在形 (疑問文と応答) 中心技能 4 技能すべて 使用場面 スピーチ後の問答 話題, テーマ 日本文化, 趣味 働き 質問する, 答える	①本文 (対話) の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]		
				3	1	1					

月	単元	ページ	タイトル／題材・内容	時数		パート名	到達目標	学習内容	文法事項・基本表現	指導の典型的手順[観点評価分類]	指導に関する備考
				単元	パート				主な言語活動		
9	Unit 6	pp. 50-55	設定理由 第三者のことを紹介するという場面を通して、三人称単数現在形について効果的に導入し、無理なく学習できるようにした。また、「人物紹介」のスピーチを行わせる際のモデル文として活用することも可能である。	1	3	○アメリカの人気スポーツである野球と人々との関係について知る。 ○人について簡単な紹介をすることができる。 ○三人称単数現在形の否定文の形・意味・用法を理解し、表現できる。	三人称単数現在形（否定文） 中心技能 4技能すべて 使用場面 スピーチ 話題、テーマ 趣味、スポーツ 働き 紹介する	①本文（説明）の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読 [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	補充 Part 1 の本文にない、人物紹介のスピーチをさせる。内容を限定し、仲間同士を紹介しあう形でもよい。原稿を書かせることで、表現の定着を図ることができる。 言語 頻度を表す副詞（ここではoften）の位置を正しく理解し、表現できるようにする。 *教科書 p.71, 英語の歌 <i>Take Me Out to the Ball Game</i> を紹介し、歌を聞かせたい。		
	単元練習③	p. 56	三人称単数現在形 題材・内容 三人称単数現在形の動詞の形と用法について総復習をする。	1		○三人称単数現在形について復習し、理解を確かめる。	復習 三人称単数現在形 中心技能 書く	①「確かめよう」による確認 [言語文化] ②「やってみよう」による練習 [言語文化]	補充 「やってみよう」と類似した問題を作成して取り組ませる。生徒の負担を少なくするため、教科書の本文を参考に問題を作成するとよい。		
	Listening Plus 2	p. 57	友達のプロフィール 題材・内容 日本に住む外国人の友達の自己紹介のスピーチを聞く。	1		○簡単な自己紹介のスピーチを聞いて、要点を聞き取ることができる。	復習 be 動詞と一般動詞、三人称単数現在形 中心技能 聞く、書く 使用場面 スピーチ 話題、テーマ 出身国、年齢、居住地 好きなこと、実施日 働き 発表する、紹介する 質問する、答える	①スピーチの要点の聞き取り (Step 1) [理解] ②スピーチの内容の確認 (Step 2) [理解] ③スピーチの内容に関する質問への応答 (Step 3) [理解・表現] ④Sound Box による発音練習 [言語文化] ●特に③への取り組み [意欲]			
	Speaking Plus 1	pp. 58-59	電話での応答 題材・内容 「電話での応答」の第1弾（第2弾は Book 2 SP 2, 第3弾は Book 3 SP 4）。話したい相手が直接電話に出た場合の基本的なやりとりを学ぶ。また、相手を招待する対話を学ぶ。	2		○電話での応答で、話したい相手が電話に出た場合の簡単なやり取りができる。 ○電話で、相手を招待したりさそったりする対話をするることができる。	Hello (, Kevin)? This is.... 復習 三人称単数現在形 中心技能 話す、聞く、書く 使用場面 電話で 話題、テーマ パーティー 働き 招待する、約束する	①場面の理解とモデル対話の確認 [理解] ②基本表現 (Step 1) [理解・表現] ③モデル対話の音読・ロールプレイ (Step 2) [表現] ④モデル対話の暗唱 (Step 2) [表現] ⑤モデル対話の応用 (Step 3) [表現] ⑥基本表現などの確認（書き取り） [理解・言語文化] ●特に⑤への取り組み [意欲]	*Step 3 の発表に時間がとれない場合は、複数のペアによるグループで、時間があればクラス全体で発表会を行うようにするとよい。 *基本表現などの書き取りは、音声として練習してきた表現を正確に定着させることがねらいである。生徒の実態に応じて、適語補充や表現の一部を書き取らせるなど、形式を工夫して扱う。必要に応じて単語を書く練習などを行ってもよい。		

月	単元	ページ	タイトル／題材・内容	時数		パート名	到達目標	学習内容	文法事項・基本表現	指導の典型的手順[観点評価分類]	指導に関する備考
				単元	パート				主な言語活動		
10	Unit 7	pp. 60-67	サンフランシスコの学校 題材・内容 ナンシーが孫のベッキーのためにサンフランシスコの中学校をビデオで紹介する。最初に案内役となるシンガポール生まれの中学生、ふたごのメイとビンを紹介し(Part 1),次に社会科の授業の様子を紹介する(Part 2)。その後、メイへの授業についてのインタビュー(Part 3),ビンへの昼食の様子、放課後や週末の過ごし方についてインタビュー(Part 4)と続く。 設定理由 ビデオレターの形での海外情報の取得,特にアメリカの学校生活について知る,という「情報教育」「異文化理解」の単元とした。	4	1	1	○ビデオレターという情報の発信方法を知る。 ○人についてだれであるかをたずねたり, 答えたりすることができる。 ○Who...?の文とその応答の形・意味・用法を理解し, 表現できる。	Who...?と応答 中心技能 4技能すべて 使用場面 ビデオ撮影 話題, テーマ 年齢 働き 質問する, 答える 紹介する	①本文(対話)の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	言語 How old...?の文とその答え方について, 形・意味・用法を理解し, 表現できるようにする。	
					1	2	○世界各地の時差について知る。 ○現在の時刻や季節についてたずねたり, 答えたりすることができる。 ○What time...?の文とその応答の形・意味・用法を理解し, 表現できる。	What time...?と応答 中心技能 4技能すべて 使用場面 社会の授業 話題, テーマ 時刻, 都市, 季節 働き 質問する, 答える ほめる	①本文(対話)の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	継続 時刻については, 毎時間の冒頭や授業の中で継続的に指導する。また, 季節については適切な時期に再度指導する。	
					1	3	○アメリカの中学生の学校生活(登校曜日や授業時数など)について知る。 ○学校生活についてたずねたり, 答えたりすることができる。 ○What+名詞...?の文とその応答の形・意味・用法を理解し, 表現できる。	What+名詞...?と応答 中心技能 4技能すべて 使用場面 ビデオ撮影 話題, テーマ 授業, 外国語, ボランティア活動 働き 質問する, 答える	①本文(対話)の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	言語 What+名詞...?の疑問文は, 最も定着しにくい文の1つである。形や用法を説明するだけでなく, 実際に何度も口頭で表現させることによって定着を図るようにする。言語確認の際の..., right?の, 肯定文にクエスチョンマークが付いている形にふれる。	
					1	4	○アメリカの中学生の学校生活(昼食や放課後の活動など)について知る。 ○学校生活や週末の過ごし方についてたずねたり, 答えたりすることができる。 ○Which is..., A or B?の文とその応答の形・意味・用法を理解し, 表現できる。	Which is..., A or B?と応答 中心技能 4技能すべて 使用場面 ビデオ撮影 話題, テーマ 学校生活 働き 質問する, 答える	①本文(対話)の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	補充 コミュニケーションの様々な場面で活用できる疑問詞を用いた表現が出てきているので, 基本練習やYour Turnで扱われた文を書かせたり, インタビュー活動を行ったりして理解を深めさせるとともに, 正確に表現できるようにさせたい。 言語 Which is..., A or B?に対する「主語+be 動詞」で終わる応答表現は中学生にとっても難しい。一般動詞の場合まで扱う必要はないが, 答え方に慣れさせるようにしたい。	

月	単元	ページ	タイトル／題材・内容	時数		パート名	到達目標	学習内容	文法事項・基本表現	指導の典型的手順[観点評価分類]	指導に関する備考
				単元	パート				主な言語活動		
10	Writing Plus 1	pp. 68-69	学校のホームページ 【題材・内容】学校のホームページを作るという設定で、学校紹介の英文を書く。	2			○必要な情報を整理したうえで、自分の学校を紹介する英文を、3文以上の英語で書くことができる。	中心技能 書く、読む 使用場面 ホームページ作り 話題、テーマ 学校名、所在地、創立年、生徒・教師数、学校行事 働き 情報を整理する	①モデルの内容理解 (Step 1) [理解] ②情報の整理 (Step 2) [理解] ③自分の学校について書く (Step 3) [表現] ●特に③への取り組み [意欲]	*Step 1～2, 可能なら Step 3 のカードの作成まで1時間目で扱い、書いた内容の確認や推敲などを2時間目に扱うとよい。また、グループで協力して取り組ませる方法もある。	
			Listening Plus 3	p. 70	海外旅行 【題材・内容】空港や機内での対話を聞き取る。	1		○空港や機内での典型的な対話(搭乗券の確認や機内での注文)を聞いて、要点を聞き取ることができる。	【復習】What time ...? Who ...? 中心技能 聞く、書く 使用場面 空港で、機内で 話題、テーマ 搭乗券、機内食 働き 確認する、注文する	①搭乗カウンターでの対話の聞き取り (Step 1) [理解] ②注文の対話の聞き取り (Step 2) [理解] ③対話の聞き取りと質問への応答 (Step 3) [理解・表現] ④Sound Box による発音練習 [言語文化] ●特に③への取り組み [意欲]	
	Unit 8	pp. 72-77	ナンシーに会いに 【題材・内容】さくら、一郎、ベッキー、ケビンが冬休みにサンフランシスコに旅行に行くという設定(このストーリーの流れは Unit 11 まで続く)。到着した飛行機の中であわてるケビンとさくらの対話 (Part 1), 手荷物受取所でのベッキーとケビンの対話 (Part 2), 空港ロビーでのベッキーと一郎の対話とナンシーとの出会い (Part 3), と続く。 【設定理由】身近な日常から一歩外に出る場面設定としての海外旅行のストーリー。具体的な場面を通して、ふさわしい文法事項を学んでいく。	1	1		○ものがどこにあるかをたずねたり、それに答えたりすることができる。 ○Where ...?の文とその応答の形・意味・用法を理解し、表現できる。	Where ...?と応答 中心技能 4 技能すべて 使用場面 飛行機の中で 話題、テーマ さがしもの 働き 質問する、答える	①本文(対話)の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	【言語】場所や位置を示す前置詞を復習する。	
				3	1	2		○ものの持ち主についてたずねたり、それに答えたりすることができる。 ○Whose ...?の文とその応答の形・意味・用法を理解し、表現できる。	Whose ...?と応答 / mine, yours 中心技能 4 技能すべて 使用場面 手荷物受取所で 話題、テーマ 荷物、持ち物 働き 質問する、答える ほめる、礼を言う	①本文(対話)の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	【言語】所有代名詞のほかに、It's my father's. のように持ち主のあとの名詞が省略される形にふれる。
				1	3			○人についてたずねたり、それに答えたりすることができる。 ○人称代名詞の目的格の形・意味・用法を理解し、表現できる。	人称代名詞の目的格 中心技能 4 技能すべて 使用場面 空港の到着ロビーで 話題、テーマ 有名人、親戚 働き 質問する、答える 説明する 聞き返す	①本文(対話)の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	【補充】疑問詞のまとめは「まとめと練習 6」(p. 100) で扱うが、この Unit にもたくさん疑問詞が出てくるので、ここで総復習してもよい。 【言語】that woman with short hair のような前置詞句が名詞を後ろから修飾する表現は、似た表現をいくつか提示して理解させ、口頭練習を通して定着を図るようにする。

月	単元	ページ	タイトル／題材・内容	時数		パート名	到達目標	学習内容	文法事項・基本表現	指導の典型的手順[観点評価分類]	指導に関する備考
				単元	パート				主な言語活動		
11	まとめと練習4	p. 78	代名詞 題材・内容 人称代名詞の格変化を総復習する。	1			○人称代名詞について復習し、理解を確かめる。	学習内容 人称代名詞 中心技能 書く	① 「確かめよう」による確認 [言語文化] ② 「やってみよう」による練習 [言語文化]	補充 「やってみよう」と類似した問題を作成して取り組ませる。生徒の負担を少なくするため、教科書の本文を参考に問題を作成するとよい。	
		p. 79	音の変化 題材・内容 連続して発音される語と語の間の音の変化の特徴を扱う。	1			○英語の音の変化の特徴について理解できる。 ○語と語の間の音の変化に注意しながら音読できる。 ○文の中で音の変化が起きる語の並びを意識しながら音読できる。	中心技能 聞く、読む	① 音の変化の理解 [理解] ② 音の変化の練習 [表現] ③ 練習問題の聞き取りと音読 [理解・表現]	継続 内容を理解するだけでなく、自分で発音でき、聞き取れるようにさせたい。日頃より教師自身が音の変化については、様々な機会をとらえ指摘するなど、継続的な指導が重要である。	
	Writing Plus 2	pp. 80-81	グリーティングカード 題材・内容 いろいろなグリーティングカードの内容や表現方法、書き方を知り、グリーティングカードを書く。	2			○いろいろなグリーティングカードを知り、よく使われる表現や書き方を理解できる。 ○自分の目的に合わせたグリーティングカードを書くことができる。	中心技能 書く、読む 使用場面 グリーティングカード 働き あいさつする 礼を言う	① モデルの内容理解 (Step 1) [理解] ② お礼のカードの完成 (Step 2) [表現] ③ 自分でカードを作る (Step 3) [表現] ④ 特に ③ への取り組み [意欲]	*Step 1～2, 可能であれば Step 3 のカードの作成まで1時間目で扱い、内容の確認や推敲などを2時間目に扱うとよい。また、グループで取り組ませる方法もある。	
		pp. 82-87	ケーブルカーに乗って 題材・内容 サンフランシスコにやってきた4人は市内の名所を見学する。ベッキーがユニオン・スクエアでみんなの様子をビデオで撮影しながら解説する (Part 1)。続いて、チャイナタウンでのさくらとナンシーの対話 (Part 2)、ケーブルカー乗り場についてのケビンとナンシーの対話 (Part 3) と展開する。	1	1		○サンフランシスコ市内の様子を知る。 ○人が今何をしているところかを述べることができる。 ○現在進行形 (肯定文) の形・意味・用法を理解し、表現できる。	現在進行形 (肯定文) 中心技能 4 技能すべて 使用場面 観光地で、ビデオ撮影 話題, テーマ いろいろな動作 働き 描写する	① 本文 (情景描写) の内容理解 [理解] ② 基本文 [理解・表現] ③ 基本練習 [表現] ④ 本文の音読 本文の暗唱 [表現] ⑤ Listen [理解] ⑥ Your Turn [表現] ⑦ 特に ④ と ⑥ への取り組み [意欲]	言語 現在進行形は、今まさに進行している状況を描写する表現であり、日本語の「…している」とは異なる場合があることを理解させる。	
Unit 9			3	1	2	○チャイナタウンの存在と様子を知る。 ○人が今何をしているところかをたずねたり、それに答えたりすることができる。 ○現在進行形の疑問文とその応答の形・意味・用法を理解し、表現できる。	現在進行形 (疑問文と応答) 中心技能 4 技能すべて 使用場面 観光地で 話題, テーマ チャイナタウン, フォーチュンクッキー 働き 質問する, 答える 相づちをうつ	① 本文 (対話) の内容理解 [理解] ② 基本文 [理解・表現] ③ 基本練習 [表現] ④ 本文の音読・ロールプレイ 本文の暗唱 [表現] ⑤ Listen [理解] ⑥ Your Turn [表現] ⑦ 特に ④ と ⑥ への取り組み [意欲]	言語 「…のような」の意味の like の用法を理解し、適切に表現できるようにする。		

月	単元	ページ	タイトル／題材・内容	時数		パート名	到達目標	学習内容	文法事項・基本表現	指導の典型的手順[観点評価分類]	指導に関する備考
				単元	パート				主な言語活動		
11	Unit 9	pp. 82-87	設定理由 Unit 8 から続くストーリー展開。市の中心部の様子、観光名所など、サンフランシスコの様子が伝わってくる。臨場感あふれる現在進行形の導入にふさわしい場面設定となっている。	1	3	○ケーブルカー発着所の標識について知る。 ○「…しなさい」「…してはいけません」と指示することができる。 ○否定命令文と be 動詞で始まる命令文の形・意味・用法を理解し、表現できる。	否定命令文 / Be	中心技能 4 技能すべて 使用場面 ケーブルカー発着所で 話題, テーマ 標識 働き 指示する	① 本文（対話）の内容理解 [理解] ケーブルカー発着所の標識についての理解 [言語文化] ② 基本文 [理解・表現] ③ 基本練習 [表現] ④ 本文の音読・ロールプレイ [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤ Listen [理解] ⑥ Your Turn [表現] ● 特に ④ と ⑥ への取り組み [意欲]	* 各国の交通標識をインターネットなどで探し、日本と異なるものなどを提示すると、生徒の本教材への関心が高まる。 * サンフランシスコの映像を見せ、題材に対する理解を深める。	
	英語の基礎	p. 88	進行形 題材・内容 現在進行形の動詞の形と文の語順について総復習する。	1		○現在進行形について復習し、理解を確かめる。	復習 現在進行形 中心技能 書く	① 「確かめよう」による確認 [言語文化] ② 「やってみよう」による練習 [言語文化]	補充 「やってみよう」と類似した問題を作成して取り組ませる。生徒の負担を少なくするため、教科書の本文を参考に問題を作成するとよい。 言語 ing 形の作り方は、「音とつづりの関係」を意識して指導するとよい（特に、e が無くなる場合と最後の子音字が重なる場合）。		
	Listening Plus 4	p. 89	電車のトラブル発生 題材・内容 列車の運行状況に関する放送と、それに関する対話を聞いて、要点を聞き取る。	1		○交通情報を聞いて、それぞれの路線が現在どのような状況であるか聞き取ることができる。 ○登場人物の対話を聞いて、それぞれが何をしているのか聞き取ることができる。	復習 現在進行形 中心技能 聞く、書く 使用場面 駅で 話題, テーマ 交通情報 働き 伝える	① 交通情報の聞き取り (Step 1) [理解] ② 電話の対話の聞き取り (Step 2) [理解] ③ 交通情報に関する質問への応答 (Step 3) [理解・表現] ④ Sound Box による発音練習 [言語文化] ● 特に ③ への取り組み [意欲]			
	Speaking Plus 2	pp. 90-91	道案内 題材・内容 町中にある目的地への徒歩での行き方をたずねる、教える会話を学ぶ。「道案内」の第1弾（第2弾は Book 2 SP 3, 第3弾は Book 3 SP 3）。	2		○町中にある目的地への徒歩での行き方をたずねたり、教えたりすることができる。	I'm looking for 復習 現在進行形 中心技能 話す、聞く、書く 使用場面 道案内 話題, テーマ 徒歩での行き方 働き 質問する、答える、聞き返す	① 場面の理解とモデル対話の確認 [理解] ② 基本表現 (Step 1) [理解・表現] ③ モデル対話の音読・ロールプレイ (Step 2) [表現] ④ モデル対話の暗唱 (Step 2) [表現] ⑤ モデル対話の応用 (Step 3) [表現] ⑥ 基本表現などの確認（書き取り） [理解・言語文化] ● 特に ⑤ への取り組み [意欲]	言語 相手の言うことが聞き取れなかったときには、聞き返して確認することが大事であることを理解させる。		

月	単元	ページ	タイトル／題材・内容	時数		パート名	到達目標	学習内容	文法事項・基本表現	指導の典型的手順[観点評価分類]	指導に関する備考
				単元	パート				主な言語活動		
12	Multi Plus 2	pp. 92-93	一日の生活 題材・内容 毎日の生活のパターンを、朝起きてから夜寝るまで時間を追って表現する。4技能総合の自己表現活動。	2			<p>○モデル文を参考にして自分の一日の生活について書くことができる。</p> <p>○質問を通じ得た情報をもとに、友達の一日の生活についての原稿を3文以上の英語で書くことができる。</p> <p>○書いた原稿をもとに、友達の一日の生活を発表することができる。</p> <p>○友達のスピーチを聞き、その内容について質問することができる。</p> <p>○「世界の友達の一日の生活の様子」を聞き、その内容について理解できる。</p>	復習 Unit 5～9の総復習 中心技能 4技能すべて 話題, テーマ 一日の生活パターン 働き 紹介する, 発表する 質問する, 答える	①活動目標の理解(目標) [理解] ②既習事項の復習(復習) [理解] ③モデルの内容理解(Hop) [理解] ④自分の一日について書く(Stepの1) [表現] ⑤友達と対話(Stepの2) [理解・表現] ⑥友達の一について書く(Stepの3) [表現] ⑦友達の一についての発表と質疑応答(Jump) [理解・表現] ⑧世界の友達の一の聞き取り(Challenge) [理解] ●特に④～⑦への取り組み [意欲]	補充 Stepの原稿作成に1指導時間をあて、全体を3指導時間として、「書くこと」の指導の重点化を図ることも可能である。 深化 日本とスペインの一日の生活のちがいを英語で発表させる、スペイン以外の国について調べさせ発表させる等の活動も可能である。 継続 Jumpは、毎時間冒頭に数人ずつ発表させる、という方法でもよい。	
1	Unit 10	pp. 94-99	観光地から 題材・内容 サンフランシスコでの4人の冬休みの様子。さくらはクラスメートのためにサンフランシスコの交通事情についてのビデオレターを作る(Part 1)。続いて、ゴールデンゲート・ブリッジ(Part 2)、ヨセミテ国立公園(Part 3)、と観光名所が登場する。 設定理由 サンフランシスコ市内の様子や観光名所、そして近隣の美しい国立公園を主人公たちの目を通して紹介することにより、アメリカ人の人々の生活や文化、大自然のすばらしさを身近に感じられるように配慮した。また、基本文を無理なく導入できるような話の流れになるように工夫した。	1	1	<p>○サンフランシスコ市内の交通事情について知る。</p> <p>○できることとできないこと(可能・能力)について、述べることができる。</p> <p>○canを用いた文(肯定文・否定文)の形・意味・用法を理解し、表現できる。</p>	canの文(肯定文, 否定文) 中心技能 4技能すべて 使用場面 観光地で, ビデオ撮影 話題, テーマ 交通事情 働き 描写する, 報告する	①本文(ビデオのナレーション)の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	言語 A, B, or Cの表現の形, 意味, 用法を理解し, 表現できるようにする。また, できればA, B, and Cも一緒に扱いたい。 言語 「…すぎる」の意味のtooの用法を理解し, 適切に表現できるようにする。		
			<p>○ゴールデンゲート・ブリッジとその名前の由来について知る。</p> <p>○あることができるかどうかをたずねたり, それに答えたりすることができる。</p> <p>○canを用いた文(疑問文)とその応答の形・意味・用法を理解し, 表現できる。</p>	3	1	2	canの文(疑問文と応答) 中心技能 4技能すべて 使用場面 観光地で 話題, テーマ ゴールデンゲート・ブリッジ 働き 質問する, 答える 説明する	①本文(対話)の内容理解 [理解] ゴールデンゲート・ブリッジについての理解 [言語文化] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	* ゴールデンホーンに関する資料を紹介する。		
			<p>○ヨセミテ国立公園について知る。</p> <p>○「いつ…?」と時期についてたずねたり, それに答えたりすることができる。</p> <p>○When…?の文と応答の形・意味・用法を理解し, 表現できる。</p>	1	1	3	When…?と応答 中心技能 4技能すべて 使用場面 観光地で 話題, テーマ ヨセミテ国立公園 働き 指示する 質問する, 答える	①本文(対話)の内容理解 [理解] ヨセミテ国立公園についての理解 [言語文化] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ [表現] 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	補充 ピクチャーカードを用いて, その内容を説明させる活動を行う。1枚の写真について, 2～3文程度を教科書本文を利用して説明させる。 *ヨセミテ公園に関する資料を紹介する。また, サンフランシスコやヨセミテ公園に関する映像を見せ, 題材に対する理解を深めさせるのもよい。		

月	単元	ページ	タイトル／題材・内容	時数		パート名	到達目標	学習内容	文法事項・基本表現	指導の典型的手順[観点評価分類]	指導に関する備考
				単元	パート				主な言語活動		
1	まとめと練習の学び方コーナー3	p. 100	疑問詞 【題材・内容】 いろいろな疑問詞を総復習する。	1			○疑問詞について復習し、理解を確かめる。	疑問詞 中心技能 書く	①「確かめよう」による確認 [言語文化] ②「やってみよう」による練習 [言語文化]	【補充】 「やってみよう」と類似した問題を作成して取り組ませる。生徒の負担を少なくするため、教科書の本文を参考に問題を作成するとよい。	
		p. 101	発音記号 【題材・内容】 主な発音記号の読み方と、単語の発音記号表示を扱う。	1			○発音記号について知り、英語の音の特徴を理解することができる。 ○発音のしかたの解説を参考にして、英語らしい発音ができる。	中心技能 聞く、話す	①発音記号の理解 [言語文化] ②発音記号の練習 [言語文化] ③練習問題による確認 [言語文化]	【補充】 発音記号で書かれた単語と実際の単語をマッチさせるゲームを行うなど、楽しみながら発音記号に親しめるようにする。	
		pp. 102-103	ちょっとお願い 【題材・内容】 家族や友達などに許可を求めたり依頼したりするときの表現を学ぶ(なお、よりていねいに許可を求める・依頼する表現はBook 2 SP 1で扱う)。	2			○家族や友達などに、許可を求めたり、依頼したりすることができる。 ○家族や友達などの依頼に応じたり、断ったりすることができる。	Can I ...? / Can you ...? 中心技能 話す、聞く、書く 使用場面 家で許可を求める、依頼する、断る 働き	①場面の理解とモデル対話の確認 [理解] ②基本表現 (Step 1) [理解・表現] ③モデル対話の音読・ロールプレイ (Step 2) [表現] ④モデル対話の暗唱 (Step 2) [表現] ⑤モデル対話の応用 (Step 3) [表現] ⑥基本表現などの確認 (書き取り) [理解・言語文化] ●特に⑤への取り組み [意欲]	【言語】 「近接未来」を表す現在進行形 (I'm coming) を理解させる。ただし、ここでは意味などの簡単な理解にとどめる。	
2	Unit 11	pp. 104-109	一年の思い出 【題材・内容】 学年末のある日、4人はブラウン先生の家へ招待される。4人が冬休みにアメリカから送った手紙 (Part 1)、ブラウン先生が地元ボストンの雑誌に連載していた日本の正月の体験談 (Part 2)、ブラウン先生との対話 (Part 3) で一年間の思い出を振り返る。	1	1		○手紙の書き方について知る。 ○サンフランシスコの名物について知る。 ○自分が過去にしたことについて伝えることができる。 ○規則動詞の過去形を用いた文 (肯定文) の形・意味・用法を理解し、表現できる。	規則動詞の過去形 (肯定文) 中心技能 4技能すべて 使用場面 手紙 話題、テーマ 旅先の近況伝える、報告する 働き	①本文 (手紙) の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	【補充】 手紙のレイアウトの基本について確認する (応用編 p. 135「手紙とはがきの書き方」参照)。 【言語】 本文の中に出てくる日本語 (ここでは oshogatsu) の扱いについてふれる。	
				3	1	2	○どのように年を越したかなどについて伝えることができる。 ○不規則動詞の過去形を用いた文 (肯定文) の形・意味・用法を理解し、表現できる。	不規則動詞の過去形 (肯定文) 中心技能 4技能すべて 使用場面 記事 話題、テーマ 年末年始の過ごし方 働き	①本文 (記事) の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	【言語】 本文最後の M. B. とは何かを確認する。	

月	単元	ページ	タイトル／題材・内容	時数		パート名	到達目標	学習内容	文法事項・基本表現	指導の典型的手順[観点評価分類]	指導に関する備考
				単元	パート				主な言語活動		
2	Unit 11	pp. 104-109	設定理由 過去形を扱う適切な場面が提供できるように設定を工夫した。また、日本とアメリカの相方から見た互いの文化や生活の様子などにもふれるように配慮した。	1	3	○過去に何をしたかをたずねたり、それに答えたりすることができる。 ○過去形を用いた文（疑問文とその応答、否定文）の形・意味・用法を理解し、表現できる。	過去形の疑問文と応答、否定文 中心技能 4技能すべて 使用場面 先生の自宅で 話題, テーマ 正月の過ごし方 働き 質問する, 答える	①本文（対話）の内容理解 [理解] ②基本文 [理解・表現] ③基本練習 [表現] ④本文の音読・ロールプレイ 本文の暗唱 [表現] ⑤Listen [理解] ⑥Your Turn [表現] ●特に④と⑥への取り組み [意欲]	補充 過去形を学習したので、前日や週末に何をしたかを思い出させて作文させ、発表させる。その際には表現が多岐にわたると混乱するので、使わせたい表現を限定して書かせるとよい。		
	Reading Plus 7	p. 110	一般動詞の過去形 題材・内容 一般動詞の過去形の形と語順について総復習する。	1		○一般動詞の過去形について復習し、理解を確かめる。	復習 一般動詞の過去形 中心技能 書く	①「確かめよう」による確認 [言語文化] ②「やってみよう」による練習 [言語文化]	補充 「やってみよう」と類似した問題を作成して取り組ませる。生徒の負担を少なくするため、教科書の本文を参考に問題を作成するとよい。		
	Listening Plus 5	p. 111	休暇中の出来事 題材・内容 ラジオ番組を聞き、要点を理解する。	1		○ラジオ番組を聞き、要点を聞き取ることができる。	復習 一般動詞の過去形 中心技能 聞く, 書く 話題, テーマ 休暇中にしたこと 働き 報告する	①番組の開始部分の内容理解 (Step 1) [理解] ②番組の続きの内容理解 (Step 2) [理解] ③番組全体の内容の確認と質問への応答 (Step 3) [理解・表現] ④Sound Box による発音練習 [言語文化] ●特に③への取り組み [意欲]			
	Speaking Plus 4	pp. 112-113	保健室での会話 題材・内容 保健室での先生と生徒との会話を扱い、特に「体の不調を訴える」表現を学ぶ。	2		○体調についてたずねたり、答えたりする際によく用いられる表現を理解し、自分の体の不調について説明できる。	What's wrong? - I have 復習 一般動詞の過去形 中心技能 話す, 聞く, 書く 使用場面 保健室で 話題, テーマ 体の不調 働き 質問する, 答える 説明する	①場面の理解とモデル対話の確認 [理解] ②基本表現 (Step 1) [理解・表現] ③モデル対話の音読・ロールプレイ (Step 2) [表現] ④モデル対話の暗唱 (Step 2) [表現] ⑤モデル対話の応用 (Step 3) [表現] ⑥基本表現などの確認 (書き取り) [理解・言語文化] ●特に⑤への取り組み [意欲]			
	Writing Plus 3	pp. 114-115	絵はがき 題材・内容 旅先からの絵はがきを書く活動をする。過去形の復習もかねる。	2		○旅先から近況を報告する簡単な絵はがきを、3文以上の英語で書くことができる。	復習 一般動詞の過去形 中心技能 書く, 読む 使用場面 絵はがき 話題, テーマ 旅先の近況 働き 伝える 工夫 ポイントを簡潔に書く	①モデルの内容理解 (Step 1) [理解] ②モデルにならって書く (Step 2) [表現] ③絵はがきを書く (Step 3) [表現] ●特に③への取り組み [意欲]	*Step 1～2, 可能なら Step 3 の文の書き出しまで1時間目で扱い、書いた内容の確認や推敲などを2時間目に扱うようにするとよい。また、場所を学校行事で行ったところに限定するなどして、グループで取り組ませる方法もある。		

月	単元	ページ	タイトル／題材・内容	時数		パート名	到達目標	学習内容	文法事項・基本表現	指導の典型的手順[観点評価分類]	指導に関する備考
				単元	パート			主な言語活動			
3	Let's Read	pp. 116-118	Over the Horizon 題材・内容 月から地球を見ている主人公の目を通して、宇宙から見る地球の美しさ、国境のない地球の様子を描写する。そして、かけがえのない地球を守ることと人々の平和な生活を願う内容になっている。 設定理由 国境のない世界、母なる地球と兄弟としての人間を意識し、平和や環境について考えさせるように工夫した。また、既習事項を復習できるように、できるだけ多くの文型を使うようにした。	3	2	○ストーリーにこめられたメッセージ（「地球はひとつ」）を理解し、それについて考える。 ○物語の展開を正確に読み取ることができる。 ○絵と本文を通して、各段落の情景を思い描くことができる。	復習 既習事項の総復習 中心技能 読む 使用場面 物語 話題、テーマ 平和、環境	①本文（物語）のあらすじの理解 [理解] ②各ページの本文の内容理解 [理解] ③本文の音読 [表現] ④本文の暗唱 [表現] ●特に④への取り組み [意欲]	言語 独立して指導したい語句が多くあるので、意味と用法を理解させるようにする。 *1 時間目は全体の通読及び p. 116, 2 時間目は p. 117 を扱う。		
			○本文の内容を理解し、正誤判断ができる。(A) ○本文の内容についての質問に適切に答えることができる。(B) ○本文の中で印象に残った部分を発表することができる。また、それについて友達と話し合うことができる。(C)			中心技能 読む、書く、話す	①本文の内容確認 [理解] ②本文の内容確認 [理解] ③心に残った1文を書く [表現] ●特に③への取り組み [意欲]	補充 1年間の英語学習の総まとめとして、本文の音読大会を行うとよい。クラスの数によってはグループにして段落ごとに読ませてもよい。			
				計	82						